

障がい福祉瓦版

2人と1匹(?)が歩む共生社会への道

問い合わせ先
下野市障がい者相談支援センター
☎(37)9970

第1歩 出合い

「はじめまして、下野市障がい者相談支援センターの鈴木です。」

「同じく、毛呂です。」

「毛」 「ここで、市の障がい福祉に関する情報を皆さんにお届けします。」

「鈴」 「これは太っ腹としか言いようがないですね。もしかは無謀な・・・。」

「毛」 「せっかくの機会ですから、目を通していただいた皆さんにとって興味深いものにしたいですよね。」

「鈴」 「で、何をされるのよ? 貴重な広報紙の1ページを使わせてさ。」

「鈴」 「??」

「毛」 「だ、誰?」

「鈴」 「はじめまして。私はゆうぼん。ゆうがおの妖精だよ。市民を代表して2人に質問していくよ。よろしくね!」

「鈴・毛」 「よ、よろしく。」

の現状を伝えていきたいと思っています。」

「ゆ」 「現状?」

「毛」 「そう。さて、ゆうぼん。『共生社会』って聞いたことあるかな?」

「ゆ」 「読んで字のごとく、共に生きる社会ってこと? でも誰と誰が共にってことなんだろう?」

「鈴」 「共生社会っていうのは、市が目指している社会のイメージなんだ。下野市障がい者福祉計画にも載っているよ。」

「ゆ」 「下野市障がい者福祉計画? 聞いたことないなあ。」

「毛」 「第5期版として平成30年4月から新しくなって、精神障がい者や障がい児への支援などが加えられたんだよ。詳しくは市のホームページにも載っているから見てみてね。障がい福祉の現状がよくわかるよ。話を戻すけど共生社会というの、簡単にいうと、老若男女、障がいの有る無し、国籍などに関わらず市に暮ら

す誰もが生き活きと暮らすことが出来る社会の事をいうんだよ。」

「ゆ」 「なるほど。それで、その共生社会と、この広報紙とどういう関係があるの?」

「鈴」 「共に生きるということは、その前提に、お互いをよく知る、事が必要だと思うのね。」

「ゆ」 「ふむふむ。」

「毛」 「僕らが仕事としている障がい福祉のことって、なんと言おうか、知っている人とうでない人のギャップが大きい印象があるんだよ。関心のある人にしか分からない世界というか・・・。」

「ゆ」 「なんとなく分かるかも。妖精の世界もそんな感じだし。」

「鈴」 「・・・まあ、そういう点でいうと障がい福祉の事を知るきっかけとして、この広報紙は1つの手段になり得るのではないかと思ったのよ。」

「毛」 「市民の声も反映出来る」と良いな。」

「ゆ」 「そんなに大風呂敷広げて大丈夫?」

「鈴」 「大丈夫だよ。3人寄れば文殊の知恵って言うでしょ?」

「ゆ」 「え? それって、私も入ってるの?」

(次号へ続く)



もろ たかひろ さん

すずき ひさや さん

掲載内容を募集します

障がい福祉に関する現状などを掲載します。皆さまより、掲載して欲しい内容がありましたら取り入れたいと思いますので、当センターまでご連絡ください。

下野市障がい者相談支援センターが移転しました

障がいをおもちの方や、そのご家族からの相談など、障がいのある方の生活を支援する「下野市障がい者相談支援センター」は4月から市役所内に移転しました。

引き続き、地域の皆さまの相談窓口として支援を行ってまいりますので、お気軽にご相談ください。

問い合わせ先

下野市障がい者相談支援センター(社会福祉課内)

☎(37)9970

✉shimotsuke.soudan@topaz.plala.or.jp

開所時間

月曜日～金曜日
午前8時30分

～午後5時15分

担当者

相談支援専門員

毛呂貴宏

鈴木寿弥